

平成27年度和歌山県文化奨励賞

にちぜんぐう 日前宮 (にちぜんぐうたきぎのう 日前宮薪能)

創 立 昭和51年
代 表 日前宮宮司 紀 俊武
所 在 地 和歌山県和歌山市

◎ 業績及び経歴

日前宮は、紀伊国一之宮として、古くから人々の崇敬を集め、今も初詣に訪れる人は和歌山県内一を誇る。

その日前宮において、「薪能」が始められたのは昭和51年のことである。

若き日の現宮司紀俊武氏が奔走し、和歌山の文化発展、更には地元へのご恩返しになればと計画・立案。普段は、祭事やご祈祷を斎行する神楽殿を開放し、夏祭りが行われる7月26日にあわせて、日本の伝統芸能である能楽を親しんでもらおうと、鑑賞料を全て無料にして薪能を奉納することとなった。記念すべき第1回の薪能では、能の人気演目として広く親しまれている「羽衣」が取り上げられた。

以来、今日まで40年にわたり、薪を組んだかがりに忌み火を灯し、幽玄な空間の下、宵闇に繰り広げられる「静」と「動」の世界は、多くの観衆を魅了し続けている。

節目をむかえた今年の薪能においては、40年を祝う意味もこめて、代表的な祝言曲「高砂」が奉納された。かつては、青々と繁る田園に取り囲まれていた日前宮周辺も、多くの家が建ち並び、その景色は一変したが、「薪能」の荘厳さは、昔と全く変わらないものがある。

禰宜の紀俊崇氏は40周年を迎えての新聞の取材に対し、「変わる事のない継承、変えない事の大切さ」と薪能の意義を語っている。

日本を代表する伝統芸能である能楽を身近で鑑賞できる貴重な機会を40年という長きにわたり提供し、本県の文化振興に果たしてきた功績は誠に多大である。同時に、伝統芸能の継承が全国的な課題となる中で、更に歴史を積み重ねて発展することが期待されている。